

SORA

web magazine 2016.aug. vol.75



Bohol Philippines

ノバビーチリゾートで潜るボホールの新しい魅力！
Do you know パミラカン？

MAP
CLICK!

ボホールのダイビングポイントと言えば、不動の人気「バリカサグ」！ ギンガメアジの群れや大きなアオウミガメにコンスタントに出会える。あまりの人気に世界中からのダイバーが増え、今はダイバーの数が制限されている。そんなバリカサグももちろん素敵だが、今回はノバビーチリゾートが密かに潜り続けていたビッグポイントに注目！ その名は「パミラカン」だ！

Photo & Text : Yasuaki Kagii

tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2016
World Tour Planners Co., Ltd.
All Rights Reserved.



S驚き urprise

バリカサグとは 逆方向に舵を切る

ボホールの代名詞となったバリカサグ以外にも、まだ面白い海が残っていたボホール。ノバビーチリゾートが、5～6年前から潜り始めたバミラカン島は、今、もっとも注目すべき海なのかもしれない。ノバビーチリゾートから東にボートで約50分。バリカサグと逆の方向に舵を取る。私自身、最初にこの島の周辺に潜ったのは、5年前。その時は、潮流れの穏やかなポイントでのダイビングとなり、豊かなサンゴ礁のポイントというのが、印象的だった。ポイントは全部で4カ所で、以前潜ったのは、サンクチュアリという保護区の周辺を潜ったのだと思う。

Bohol

フィリピン・ボホール

Philippines

tsumi-shima   
ダイバーの夢をつみあげていく船



S驚き Surprise

バラクーダに付いていくと、 そこには誰も知らない海底が……

Bohol
フィリピン・ボホール
Philippines

今回お薦めは、サイトAという島の南側のポイント。潮当たりの良いエリアで、基本的にはバラクーダの群れを狙っていく。私は最初あまり期待せずにエントリーしたが、潜水直後から、海底の不思議な様子が気になっていた。肌色のソフトコーラルがカーペットのように群棲し、所々に、緑色のナンヨウキサンゴと赤色のソフトコーラルのパッチリーフがある。そこには黄色や緑のウミシダが群棲している。そして、メラネシアンアンティースやキンギョハナダイが彩りを添える。そのようなパッチリーフが、たくさん連立している。まだ誰にも手を付けられたことのない真綿のような印象を覚える海底。確かに、世界中からやってくるダイバーは、バリカサグばかりに注目し、このエリアでは、他のダイビングポイントはほとんど見ない。ノバビーチリゾートの謂わば、独占状態の海なのだ。この海の魅力に気付くには、水中カメラが必要なかもしれない。黒色に見えるウミシダは大胆な赤色。肌色のようなソフトコーラルは、ピンクのソフトコーラル。秘密の色が海底に散らばっている。水深13mを進んで行くと畳2帖ほどのパッチリーフを見つけた。私が接近すると、まるで大粒の雨が降ってくるようにメラネシアンアンティースが舞う。オレンジ色のカイメン、カラフルなウミシダ。まるで作られたテーマパークのような華やかさが海底にある。ダイバーの影響を受けていない海底で、私はこれ以上ない幸せを感じていた。エキジットした後、抑えられない興奮を、一緒に潜ったダイバー仲間と共有していた。



S 驚き
Surprise

Bohol
フィリピン・ボホール
Philippines

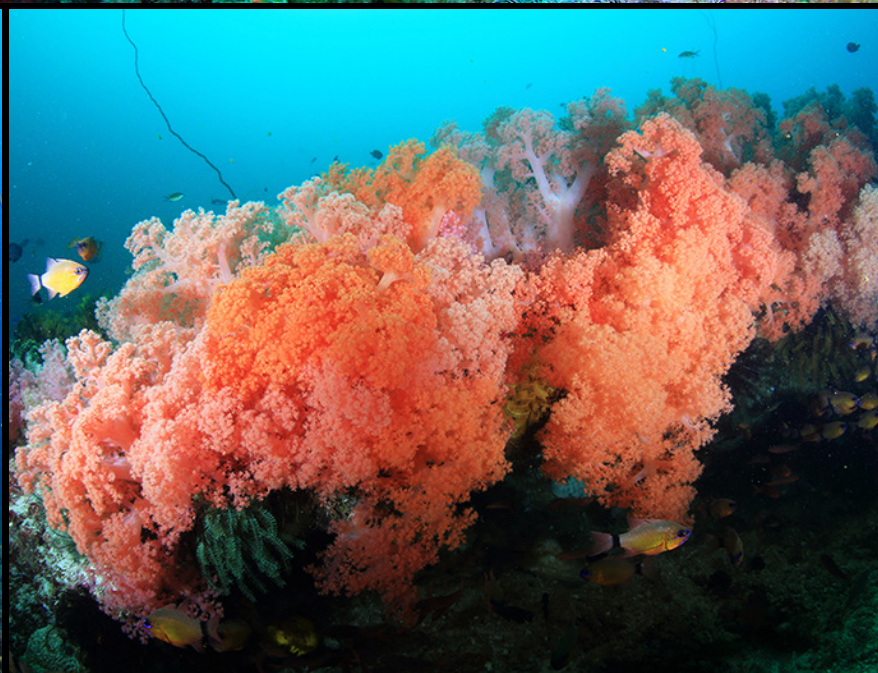
無垢な海の本当の素顔、そして溢れ出す色彩

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく



S 驚き Surprise

その名は、サイトB



Bohol

フィリピン・ボホール

Philippines

1本目はサイトAで潜り、そのままのテンションで、お隣のサイトBに潜った。島の潮当たりの良い根の反対側を潜っていく。なだらかな傾斜に誘われるように、水深30mまで落とした。するとそこには、大きめのピンクのソフトコーラルが一面に群棲していた。カーペットではない。羽毛布団が敷き詰められている感じ。30mほど先にオーバーハングがあり、一緒に潜ったダイバー仲間は、その下を覗き込んだが、そこにもソフトコーラルがびっしりと群棲しているとのこと。深くに行かなくては魅力を見つけられないポイントではないが、深場はやはり魅惑の海底であった。少しずつ深度を上げていく。カスミチョウチョウオやムレハタテダイが群れている。今回は、残念ながら透明度が悪かったが、もし良い時になると、「私はどうなってしまうのだろうか?」とまたまた興奮してくる。今回、撮影した写真から、大切な手つかずの海であるということが分かりづらいかもしれないが、是非、潜って欲しい。ダイバーを知らない海の豊かさを。

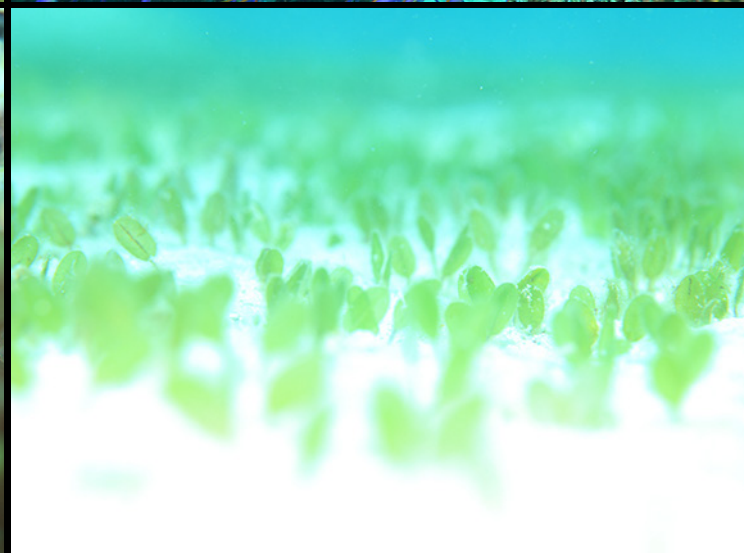
S驚き Surprise

サイトA&Bは、潮当たりの良い「動」のサンゴの美しさ。
潮が当たらない静かなエリア、
サンクチュアリ・ウエスト&イーストは、「静」のサンゴ世界

Bohol

フィリピン・ボホール

Philippines



島の北側にあるサンクチュアリ・ウエスト&イースト。砂地とサンゴのドロップオフを潜っていく。とにかくハードコーラルが健全で、ユビエダサンゴなどの色んなサンゴのフォーメーションを楽しむことができる。そのサンゴの上にお魚も多く、紫、黄色、青色などのスズメダイ、ハナダイが混合で群れ、とにかくカラフル。マクロの生き物では、サンゴの上でマンジュウイシモチを見つ

けた。撮影していて思ったのは、お魚たちは、ダイバーをほとんど見たことがないのか？ 警戒する様子もなく、どちらかというと、カメラを構えてまわっていると、どんどんとファインダー内に集まってくれる感じ。大袈裟な言い方をすれば、このポイントではお魚と友達になれる、そんなことを思わせてくれるポイントだった。

O 海 cean



Bohol

フィリピン・ボホール

Philippines



定番・バリカサグへGO!

ボホールの代名詞的存在のバリカサグ。その人気はとどまることを知らず、昨年から、入島するダイバーへの制限が設けられた。それは1日 300ダイブというもので、簡単に言うと、150名のダイバー×2ダイブまで。そのようなイメージだ。事前許可制で、ダイビングセンターが、ゲストの予約代行を行っている。環境保全への取り組みとしてこのようなルールを設けたが、今でも世界中からダイバーが集まっている。バリカサグの魅力は、やはりギンガメアジの群れやアオウミガメに出会えるということ。ポイントは、ギンガメアジの群れを狙ってエントリーする「サンクチュアリ」。以前はバラクーダとギンガメアジの群れが有名で、カメにも会える「ブラックフォレスト」。そして現在、もっともギンガメアジに出会える可能性のあるロイヤルガーデン（元カテドラル）などがある。棚の上の浅瀬には、アマモの草原が続き、点在するテーブルコーラルには、メラネシアンアンティスやパープルビューティーがごっつやりと群れる。大物が住む海で、広大な藻場が育成している不思議な空間がバリカサグの魅力だ。



tsumi-shima

We
World explorer



Ocean

ノバハウスリーフは、早朝から潜ることのできるボホールの名物ポイント。6時半からエントリー可能で、ポートダイビング（9時）前に1本、ダイビングを楽しむことができる。まず特徴のひとつとして、海岸線からいかだに乗って少し沖合のリーフまで行く。天然の海岸線を守るために栈橋が作られておらず、このいかだダイブが発明された。生まれたての朝の景色の中、いかだでゆっくり進んでいく。水面に近

い視点で海を渡っていく。それがとても新鮮で、心地よい。エントリーして、一面のミドリイシサンゴ群生の上を泳ぐ。6種類のクマノミに挨拶して、リングアイジョーフィッシュやニチリンダテハゼ、カニハゼなどのアイドル種に会いに行く。午後のポートダイブを終えてからも、ハウスリーフにエントリーすることができるので、是非、ハウスリーフを身近に楽しんで欲しい。

Bohol

フィリピン・ボホール

Philippines



いかだで、ノバハウスリーフでお馴染みのアイドル種に会いに行く



tsumi-shima

World explorer



パングラオ島の海岸線で 近場&面白ダイビング！

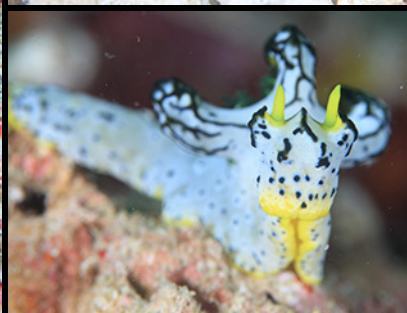
Bohol

フィリピン・ボホール

Philippines

東西にポイントが点在する。東から、アーチのポイント「アルコ」。ブルーホールほどではないが潮通しが良く、各種クマノミが見られる。オオモンカエルアンコウなどの姿もちらほら。そしてお隣の「BBC」は砂地のポイントで、トオアカクマノミが住んでいる。ナンヨウキサンゴが並んでいる壁があり、ジープが沈んでいる。「サンライズ」はBBCの延長。岩と砂のミックスの地形で、ハゼなどが多い。高級リゾート前の「エスカヤ」も、クマノミやニチリンハゼなどが見られる。

今回、実際に潜った「ホヨホイースト」はハウスリーフの隣のポイント。ハウスリーフはサンゴのなだらかな地形だが、ここの地形はドロップオフ。壁沿いに進んで行くと大きな腔腸類があり、そこにスズメダイなどが群れていて華やか。またウミウシやベニハゼ、エビカニなどの甲殻類も見つかる。海底には物怖じしないリングアイジョーフィッシュの姿も。また今回は見れなかったが、前回はオオモンカエルアンコウのペアなどもいたとガイドさんが教えてくれた。また、キンセンフエダイとホソフエダイの群れがたまるところがあるらしい。そして、ハウスリーフを挟んで、ハウスリーフに雰囲気が似ている「ロックビュー」は、水深3〜15m くらいのショートドロップで、壁と砂地が楽しめる。



O 海cean

トオアカクマノミの家族が微笑む



Bohol

フィリピン・ボホール

Philippines



「バンガラオ・サンクチュアリ」は、少し深場にネジリンボウと珍種のニシキアナゴがいる。浅場には、スプリングスダムセルが群れている。以前はとてもサンゴが綺麗だったが、大きな台風で残念ながらダメになった。「アロナ」はドロップオフのポイントで、ツバメウオに会える。20mの砂地にはスパゲティールやカニハゼなどもいる。「カリパヤン」は、浅瀬にいくつかのトオアカク

マノミのコロニーがある。草原の中にある家族の様子が可愛くて、寝そべりながらずっと写真を撮ってしまう。卵を持っている親子は、卵を守るために、あまり接近しすぎると体当たりしたり、指を噛んで来たりと……、激しい愛情を感じます。また、アマモの海底でカミソリウオやウミテングを見つけることができるので、光の降り注ぐ明るい草原で、お宝探しも面白い。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく



R ロマンス omance



Bohol

フィリピン・ボホール

Philippines

新しい海に行きたい

今回は、2日間パミラカンに訪れた。2日目の午後、パングラオに戻りながらどこかで潜ろう！ということになり、ガイドのけいこさんと話していると、「漁師さんが良く漁に行くスネークアイランドというポイントがある。すごい数のウミヘビがいますが、行きますか？ きっと、今日のキャプテンは、場所を知っているはずですよ」とのこと。「ウミヘビは怖いし、たくさん居るのは気持ち悪いかもしれないけれど、漁師さん御用達なら面白いかも知れない！ 行く行く！」と返事をする。海を凝視しながらキャプテンがポイントを見つける。ちょっとビビりながらエントリー。水深10mの海底に着いてもウミヘビの姿は見当たらない。逆に目に飛び込んで来たのは、たくさんの種類のベラ！ 中には、フラッシングしながらの求愛や喧嘩をしている。ピンクフラッシャー、ルソンイトヒキベラ、クロヘリイトヒキベラ、Royal wrasse、Smalltail Wrasse など。ベラ好きには垂涎のポイント。ウミヘビもちらほら見たが、ベラのインパクトの方が強かった。他にもブリーカーズダムセルの可愛い幼魚を見つけた。また潜りたいと、恋するポイントを見つけたのだ。

行動 Action

ノバビーチリゾート Nova Beach Resort

オーナーの河村さんのこだわりを感じる、自然素材を大切にしたりリゾート。現地産の素材を使用し、海を感じられるような建物の配置、高さなどを重視した設計になっている。確かに、レストランやコゴン屋根(萱葺き)の東屋、サンデッキなど、リゾートのどこに居ても海を眺めたり、感じることができる。ダイバーのためのリゾートであり、ダイバー専用1日のスケジュールが組まれている。たとえば、食事のスタート時間などもダイバー向けの時間設定になっている。ひとつひとつ作りが違うスタンダード、セミデラックス、デラックス、スーパーデラックス、トレスピラ、シーサイドピラなどのカテゴリーがあるコテージが18室で、最大40名のゲストが宿泊可能。食事は基本、ビュッフェ方式。和食のメニューを取り入れたフィリピン料理。味噌汁や野菜も豊富なので、日本人に合うと評価されている。フィリピン式マッサージなどのスパサービスもある。

Bohol

フィリピン・ボホール

Philippines



ダイビングスタッフは、オーナーの河村さんを始め、けいこさん、ロンロン、ロジャー、繁忙期はアルが助っ人にやってくる。オープン当初から10年以上の経験を持つガイド陣で、マクロの生き物を大切にする日本人好みのガイドで行ってくれる。基本的に、お客様・お姫様ダイブで、滞在中楽しむことができる。「海が見えるレストランやテラスは憩いの場で、ひとりでも来て、共通の海の話で楽しく過ごせる場所をご用意しています」とオーナーの河村さんは話してくれた。